

## 第1178回教育委員会（定例会）会議録

### 公開

#### 1 日時場所

令和7年3月11日（火） 午後3時  
県庁教育委員会室

#### 2 出席者

佐野教育長、小林委員、井口委員、三井田委員、松山委員、吉田委員  
（事務局）小川教育次長、坪川教育次長、明間総務課長、石黒財務課長、  
齋藤福利課長、大島義務教育課長、石橋高等学校教育課長、  
石山生徒指導課長、小川生涯学習推進課長、稲川保健体育課長、  
総務課長補佐、総務課総務係長、総務課総務係主任

#### 3 開会

午後3時

#### 4 議事日程の承認

第1178回教育委員会の議事日程及び議事順序を承認した。

#### 5 会議録（公開分）の承認について

第1177回教育委員会（定例会）会議録（公開分）を承認した。

#### 6 議案審議

##### 第48号議案 新潟県立学校管理運営に関する規則及び新潟県教育委員会組織規則の一部改正について

事務局から、新潟県立学校管理運営に関する規則及び新潟県教育委員会組織規則の一部改正について説明があり、審議の結果、全員異議なく原案どおり可決した。

##### 第49号議案 技能労務職員の給与等に関する規則の一部改正について

事務局から、技能労務職員の給与等に関する規則の一部改正について説明があり、審議の結果、全員異議なく原案どおり可決した。

なお、次のとおり質疑、意見等があった。

井口教育委員

ひとつよろしいですか。

この改正後において中学卒という欄が消えているが、これは、現実問題もうこういう方はあまりいらっしゃらないからということで削った形になるのか。

総務課長補佐

はい。それも1つあるが、あとは、号給も減っているかと思うが、今回一般職も含めて、給料表の上の部分が削られた関係もあって、高卒も今まで1級21号給だったが1級5号給という形で。そういったことを踏まえ、号給のみの基準としている。

#### 第53号議案 令和7年度新潟県教科用図書選定審議会への諮問について

事務局から、令和7年度新潟県教科用図書選定審議会への諮問について説明があり、審議の結果、全員異議なく原案どおり可決した。

#### 第54号議案 指導改善研修の実施に関する規則の一部改正について

事務局から、指導改善研修の実施に関する規則の一部改正について説明があり、審議の結果、全員異議なく原案どおり可決した。

#### 第55号議案 「県立高校の将来構想」について

事務局から、「県立高校の将来構想」について説明があり、審議の結果、全員異議なく原案どおり可決した。

なお、次のとおり質疑、意見等があった。

佐野教育長

いろいろご意見いただいたが、印象に残っているのはやはり、「構想自体をきちんと子供たち、中学生の生徒さんたちに伝えるようにわかりやすい概要版とか説明をしてもらいたい」というご意見をいただいたので、そういう対応はしっかりさせていこうかなと思っている。

井口教育委員

今、高校の無償化が話題になっているが、将来構想には影響はあるのか。

石橋高等学校教育課長

少なからずあると思う。  
こちら、どの学校に影響が出るかをこれから見ていかないといけないところだが、やはり私立に専願で行きたいというご家庭にとっていい政策だと思う一方、その分、文科省も言っているが、専門高校の方に予算を当てたらどうだというようなことで。文科大臣もこれについて発表したけど、我々としては農業・工業、水産・商業そういった部分を大事にしていかななくてはならない。また、セルフデザインハイスクールとなる定時制・通信制の部分も、学びのセーフティーネットということで、しっかりと県立高校としてはやっていたいかなければいけないなと思っている。

井口教育委員	<p>特に定員のところで、なおさら歯止めがかかりづらいというか減らしづらく、私立は減らしづらくなるのかなと思っていて。かえって公教育の方が大きく落ち込んでいくようなことになると嫌だなと正直思っているが、そのあたりはどうか。</p>
石橋高等学校教育課長	<p>大阪あたりは相当な影響が出ていると言われている。東京の方も私立への流れが出ている。その公私の比率ということであれば、新潟県はまだ都会ほど影響はないと思う。</p> <p>ただ、私立と公立とどちらに行くかっていうところを選ぶ生徒さんたちにとっては、やはりどちらを選ぶかと言ったら私立の施設がいいとかっていうところに目がいってしまうのかなというのがあるが、私立にもキャパシティがあるので、50人学級にするとかそういうことは簡単にはできないと思う。我々は我々がやるべきことをしっかりとやらなければいけない。</p>
小林教育委員	<p>今、生徒にわかりやすくするという部分で、中学校などが対象になる。それと、やはり先生の理解も重要。小中学校の先生たちがしっかりと理解していないと、相談があったときに適切に答えられないことになる。逆に、指導者側が特に義務教育の範囲で、小学校も含めてではあるが、どの先生でもしっかりと指導ができるように、知識を身につけておく必要があると考えている。</p>
佐野教育長	<p>その通りだ。高校の先生も当然対象になるので、その点も考慮している。</p>
松山教育委員	<p>基本的な質問かもしれないが、この冊子のコメントを読んでいて気づいたことがある。小規模校になった場合、生徒の人数に対する先生の配置がどうなるのかという点が気になったが、それはそのような理解でよいのか。</p>
石橋高等学校教育課長	<p>その質問は地域説明会でも出ていた。30人学級にするという意見もあったが、現在は国の定数の法律があるため、標準法に従って1クラス40人と決められている。それに基づいて教員の定数も決まるため、義務教育とはまた異なる形になる。今後、国がどのような方針をとるかにもよる。</p>
佐野教育長	<p>基本的にはクラス数で決まる。例えば、40人学級が20人学級になればクラス数が倍になり、それに応じた先生を配置することになる。ただ、現在は1学級あたり40人という標準法に基づいているため、基本的には40人を原則として考えざるを得ない。県立高校の中には30人学級も一部ある。例えば、新津工業の日本建築学科は30人</p>

	学級になっている。
石橋高等学校教育課長	定時制では35人で募集している。
佐野教育長	カリキュラムの内容によっては特別な配慮が必要な学校も出てくるかもしれない。ただ、現時点では原則40人という考え方だ。その背景には国からの予算の問題もあるため、すぐに単独で変更することは難しい。小学校では35人学級を県単独で導入したが、高校については今のところその予定はない。
松山教育委員	少人数だときめ細やかな指導ができるというコメントがあったが、先生の数が減ると高校では受けられない科目が出てくるのではないか。その点が伝わらないと、「学校の規模が小さくなるだけなら問題ないのでは」といった議論に流れてしまう。もし、受けられない科目が出てきた場合、遠隔授業で補うという考え方があるのなら、それも一つの方法かもしれない。ただ、そのあたりの説明がこの冊子を読んだだけでは分かりにくかった。
佐野教育長	地域の説明ではしっかりと伝える。高校は教科担任制なので、小学校とは違い、担任が全科目を教えるわけではない。クラス数が少なくなると、専門の先生が揃えられなくなる。過去には理科の先生が社会を教えたこともあった。学校の規模が小さくなりすぎると、教育機会が十分に確保できなくなるため、その点も含めて説明をしていく。
松山教育委員	単純に「人数が減るだけ」と伝わると、「それなら少なくとも問題ないのでは」といった議論になりがちだ。しかし、部活動や運動会などの行事も規模が小さくなることは比較的イメージしやすい。このあたりの説明も重要だと思う。

## 第56号議案 新潟県立文書館規則の一部改正について

事務局から、新潟県立文書館規則の一部改正について説明があり、審議の結果、全員異議なく原案どおり可決した。

### 7 その他

#### (1) 令和7年度働き方改革推進プランの取組について

事務局から、令和7年度働き方改革推進プランの取組について報告があった。

#### (3) 令和7年度新潟県公立高等学校入学者選抜特色化選抜の実施状況について

事務局から、令和7年度新潟県公立高等学校入学者選抜特色化選抜の実施状況につい

て報告があった。

(4) 令和8年度新潟県立中等教育学校及び新潟県立柏崎高等学校併設中学校入学者選抜について

事務局から、令和8年度新潟県立中等教育学校及び新潟県立柏崎高等学校併設中学校入学者選抜について報告があった。

なお、次のとおり質疑、意見等があった。

小林教育委員

この適性検査の概要は、学力を問うものなのか、それとも別の形なのか。

石橋高等学校教育課長

これはSPIのような適性検査ではなく、学習指導要領に基づいたものだ。図や表、会話文、文章などから課題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析し、論理的に考える力を見る。現在は作文形式になっている。学習指導要領から逸脱しない範囲でその力を測ることを考えている。

(5) 「新潟県こども読書活動推進計画【第四次計画】」の策定について

事務局から、「新潟県こども読書活動推進計画【第四次計画】」の策定について報告があった。

なお、次のとおり質疑、意見等があった。

三井田教育委員

「学校における子供の読書活動推進の取組（実施率の向上）」という項目があるが、現在の実施率はどの程度か。

小川生涯学習推進課長

冊子の34ページを見てほしい。そこに具体的な数値目標が載っている。「学校における子供の読書活動推進」の項目には、全校一斉読書活動や学校図書館計画の策定状況など、5つの具体的な項目がある。現状値を上げていくことを目標としている。

三井田教育委員

具体的な数値目標は設定されていないのか。

小川生涯学習推進課長

現状値からの向上を目指しているが、具体的な目標値までは設定していない。

吉田教育委員

タブレットを活用しつつも、実際に本を借りて読む子供を増やしたいという意図があるのではないか。タブレットを使って本を借りる仕組みは導入されているのか。

小川生涯学習推進課長	小学校では、公で提供されている電子図書の仕組みはまだ整っていない。
吉田教育委員	やはりそうか。
小川生涯学習推進課長	新潟市はすでに導入している。三条市も今年から開始している。
佐野教育長	新潟市を除いた29市町村が協力し、デジタル図書を導入し、小学校で活用できる環境を整える計画だ。令和8年度中頃を目標に進めており、市町村との合意も得られている。
松山教育委員	子供たちは動画やゲームの影響が大きく、読書の時間が減っている。特に高学年になるほど読書数が減る傾向があり、その対策は難しいと感じる。
小川生涯学習推進課長	小さい頃の読書習慣を身につけることが重要だ。幼児期の読み聞かせや、小学生向けの取り組みを重点的に進めている。
佐野教育長	親が本を読まなければ、子供も読まない。小さい頃からの読書習慣を親と一緒に作ることが必要だ。
小林教育委員	推進計画には具体的なアクションが必要だ。例えば、親子で読書することを推奨する標語のようなものがあるとよい。
佐野教育長	計画を作って終わりではなく、広めていくことが重要だ。

以上で、公開分の日程を終了した。